

ESPフォーキャスト調査 質問票
2022年1月調査 (1月13日頃公表予定)
(回答の送信期限:1月7日12時)

機関名
フォーキャスト 氏名

- とりまごの際のフォーキャスト一覧の機関名、肩書、氏名等の記載を変更する場合は、お書き添えください。
- 数字は半角で打ち込んでください。

I-(1) 年度(米国、中国、ユーロ圏のGDP、NY原油価格は暦年)

Table with 20 columns: 名目GDP, 実質GDP, 実質民間最終消費支出, 実質民間住宅投資, 実質民間企業設備投資, 実質民間在庫変動, 実質政府最終消費支出, 実質公的固定資本形成, 実質公的在庫変動, 実質財貨・サービスの輸出, 実質財貨・サービスの輸入, 鉱工業生産指数, 経常収支, 消費者物価(生鮮食品除く総合), 完全失業率, 名目賃金指数, 国債流通利回り(10年物), 日経平均株価, マネーストック(新M2), 円相場(対米ドル), 米GDP, NY原油価格(WTI), 中国GDP, 貿易収支, ユーロ圏GDP. Rows include 2020実績, 2021予測, 2022#, 2023#.

注:①国債流通利回り、日経平均株価、円相場、NY原油価格は、いずれも「営業日平均」、②名目賃金指数は、毎月勤労統計調査の事業所規模5人以上(パートタイム労働者を含む)の現金給与総額

I-(2) 予測値の主観的な分布

・実質GDP増加率

Table for real GDP growth rate distribution with columns for ranges (e.g., x<=3, -3<x<=2) and a total count column (合計値) with values 100, 0, 0, 0.

・CPI生鮮食品除く総合上昇率

Table for CPI distribution with columns for ranges (e.g., x<=4, -4<x<=3.75) and a total count column (合計値) with values 100, 0, 0, 0.

II. 四半期

Table for quarterly data with columns: 実質GDP, 実質民間最終消費支出, 実質民間企業設備投資, 実質財貨・サービスの輸出, 実質財貨・サービスの輸入, 消費者物価(生鮮食品除く総合), 完全失業率, 円相場(対ドル), 株価(日経平均), 鉱工業生産指数. Rows include 2021III実績, 2021IV予測, 2022I#, 2022II#, 2022III#, 2022IV#, 2023I#, 2023II#, 2023III#, 2023IV#, 2024I#.

III. 総合景気判断DI

- 総合景気判断として、各期ごとに「上昇」、「横ばい」、「下降」のいずれかを選択し、以下の該当する欄に「○」を入力してください。

Table for DI judgment with columns: 総合景気判断, 上昇, 横ばい, 下降. Rows include 2021IV予測, 2022I#, 2022II#, 2022III#, 2022IV#, 2023I#, 2023II#, 2023III#.

参考:景気動向指数DI(一致指数)の動きを想定して、以下のようにご判断ください。
当期のDIが50超であると思われる場合 → 「上昇」
当期のDIが50未満であると思われる場合 → 「下降」
当期のDIが50近傍、または明確な動きにならないと思われる場合 → 「横ばい」

IV. 21年10～12月期の成長率(その他項目)

- 「II」の項目以外の前期伸び率が、「上昇(伸び率の符号はプラス)」、「ほぼゼロ」、「低下(伸び率の符号はマイナス)のいずれかを選択し、以下の該当する欄に「○」を入力してください。在庫変動については、前期伸び率ではなく、実質GDP成長率に対する寄与度についてお答えください。

Table for growth rate judgment with columns: (実質), 前期伸び率, 上昇, 横ばい, 低下. Rows include 民間住宅投資, 民間在庫変動(寄与度), 公的固定資本形成, 政府最終消費, 公的在庫変動(寄与度).

V. 景気の転換点

- 政府見解では2020年5月が景気の谷(暫定)となっています。その次の景気の転換点(山)はもう過ぎたとお考えですか。

(1) 「はい」、「いいえ」の一方に「○」を入力してください。

はい いいえ

(2) ●(1)で「はい」の場合にお答え下さい。

転換点(山)はいつだったとお考えですか。"年(西暦4ケタ)"と"月"を記入してください。

年 月

%

(2) ●(1)で「いいえ」の場合にお答え下さい。今後1年以内に景気の転換点(山)がくる確率は何の位あると予測していますか。%で記入して下さい。

(3) ●(1)で「はい」の場合にお答え下さい。その次の景気の転換点(谷)ももう過ぎたとお考えですか。

「はい」、「いいえ」の一方に「○」を入力してください。

はい いいえ

(4) ●(3)で「はい」の場合にお答え下さい。

転換点(谷)はいつだったとお考えですか。"年(西暦4ケタ)"と"月"を記入してください。

年 月

%

(4) ●(3)で「いいえ」の場合にお答え下さい。今後1年以内に景気の転換点(谷)がくる確率は何の位あると予測していますか。%で記入して下さい。

(5) ●(3)で「はい」の場合にお答え下さい。

その次の景気の転換点(山)ももう過ぎたとお考えですか。

はい いいえ

(6) ●(3)で「はい」の場合にお答え下さい。

転換点(山)はいつだったとお考えですか。"年(西暦4ケタ)"と"月"を記入してください。

年 月

%

(6) ●(5)で「いいえ」の場合にお答え下さい。今後1年以内に景気の転換点(山)がくる確率は何の位あると予測していますか。%で記入して下さい。

VI. 日銀の金融政策

(1) ● 日銀の政策金利・誘導目標の見直しについてお尋ねします。

2022年末、23年末の日銀の短期政策金利、長期金利の誘導目標・実勢金利はそれぞれどれくらいになると予想していますか。

以下のいずれかに“○”を入力してください。 **「現状維持」を予想される場合は、短期は「▲0.1%以上～0%未満」、長期は「0%以上～0.1%未満」をお選びください。**

		▲0.3%未満	▲0.3%以上 ▲0.2%未満	▲0.2%以上 ▲0.1%未満	▲0.1%以上 0%未満	0%以上 0.1%未満	0.1%以上 0.2%未満	0.2%以上 0.3%未満	0.3%以上 0.4%未満	0.4%以上 0.5%未満	0.5%以上 0.75%未満	0.75%以上 1.0%未満	1.0%以上
短期政策金利 (現状 ▲0.1%)	22年末												
	23年末												
長期金利の誘導目標 (現状 0%程度)	22年末												
	23年末												
実勢の長期金利 (10年物国債流通利回り)	22年末												
	23年末												

(2) ● 枠組み自体の変更など(上記の補足も含む)があればご記入ください。

--

VII. (特別調査) 米国の金利

(1) ● 2022年末、23年末の米国の政策金利(FFレート・市場実勢値)はどれくらいになると予想していますか。

		▲1.0%未満	▲1.0%以上 ▲0.75%未満	▲0.75%以上 ▲0.5%未満	▲0.5%以上 ▲0.25%未満	▲0.25%以上 0%未満	0%以上 0.25%未満	0.25%以上 0.5%未満	0.5%以上 0.75%未満	0.75%以上 1.0%未満	1.0%以上 1.25%未満	1.25%以上 1.5%未満	1.5%以上 1.75%未満	1.75%以上 2.0%未満	2.0%以上 2.25%未満	2.25%以上 2.5%未満	2.5%以上 2.75%未満	2.75%以上 3.0%未満	3.0%以上 3.25%未満	3.25%以上 3.5%未満	3.5%以上 3.75%未満	3.75%以上	
米国のFFレート (現状0.00～0.25%)	22年末																						
	23年末																						

(2) ● 2022年6月末、12月末、23年6月末、12月末の米国の長期金利(10年国債)はどれくらいになると予想していますか。

以下のいずれかに“○”を入力してください。

		0.5%未満	0.5%以上 0.6%未満	0.6%以上 0.7%未満	0.7%以上 0.8%未満	0.8%以上 0.9%未満	0.9%以上 1.0%未満	1.0%以上 1.1%未満	1.1%以上 1.2%未満	1.2%以上 1.3%未満	1.3%以上 1.4%未満	1.4%以上 1.5%未満	1.5%以上 1.6%未満	1.6%以上 1.7%未満	1.7%以上 1.8%未満	1.8%以上 1.9%未満	1.9%以上 2.0%未満	2.0%以上 2.1%未満	2.1%以上 2.2%未満	2.2%以上 2.3%未満	2.3%以上 2.4%未満	2.4%以上 2.5%未満	2.5%以上 2.6%未満	2.6%以上 2.7%未満	2.7%以上 2.8%未満	2.8%以上 2.9%未満	2.9%以上 3.0%未満	3.0%以上	
	22年6月末																												
	22年12月末																												
	23年6月末																												
	23年12月末																												

VIII. (特別調査) 景気のリスク

● 仮に現在が景気拡張局面だとすると、半年から1年後にかけて、景気上昇を抑える(あるいは景気を反転させる)可能性があるとしたら、要因は何だと思えますか。

重要なものに3つまで“○”を入力してください。また、よろしければ○を付けた理由を右欄にご記入ください。

	3つまで○	○を付けた理由
1) 円高		
2) 株安		
3) 金利上昇		
4) 原油価格の上昇		
5) 公共投資の減少		
6) 米国の景気の悪化		
7) 中国景気の悪化		
8) IT部門(電子部品など)の悪化		
9) 国内政治の不安定化		
10) 国際関係の緊張や軍事衝突		
11) 保護主義の高まり		
12) 新型コロナウイルスの感染状況		
13) その他(具体的に →)		
14) 原因になるものはない		